

「世界平和のための人類のきょうだい愛」に関する共同宣言書

序文

神への信仰によって、人は他者の内に支えるべき、愛すべききょうだいを見るようになります。宇宙、生きとし生けるもの、その慈しみの前に平等であるすべての人を創造された神への信仰によって、信じる者は、被造界と全宇宙を大切に守り、すべての人、とりわけもっとも助けを必要としている貧しい人々を支えることを通して、この人間同士のきょうだい愛をあらわすよう招かれています。

この超越的な価値を踏まえ、きょうだい愛と友情に満ちた多くの会合を通して、わたしたちは現代社会における喜び、悲しみ、問題についてさまざまなレベルで話し合いました。科学・技術の進歩、病気の新しい治療法、デジタル時代、マスメディア、コミュニケーションなどのレベルに加え、武装化、社会不正、汚職、不平等、モラルの低下、テロリズム、差別、ファンダメンタリズム、その他さまざまな原因によって世界の多くの地域に広がる貧困、戦争に苦しむ大勢の兄弟姉妹たちの存在についても話し合いました。

わたしたちが持つことのできたこのようなきょうだいで誠実な意見交換、全人類の輝かしい未来への希望に満ちた会合を通して、この「人類のきょうだい愛宣言」の発想が生まれました。誠実で真摯な意志に基づく共同宣言であるべく、深い熟考に基づく宣言文です。新しい世代を相互尊重の文化へと導き、すべての人をきょうだいにする神の偉大なめぐみを理解するよう、神への信仰を心に抱く人々、また人類のきょうだい愛を信じる人々が、共に働くよう招くものです。

本文

すべての人を、その有する権利、義務、尊厳において平等に創造され、互いにきょうだいとして生き、善、愛、平和で地を満たすよう招かれた、神の名によって：

誰であろうと、一人のひとを殺した者は全人類を殺害したことになり、誰であろうと、一人のひとを救った者は全人類を救ったことになると明言し、神が殺すことを禁じられた人間という無垢の魂の名によって：

すべての人、とりわけ金持ちで裕福な人に対して、救援するよう神が命じた貧しい人々、困窮した人々、助けを必要としている人々、疎外されている人々の名によって：

孤児、寡（やもめ）、難民、家や故郷から追放された人々； 戦争、迫害、不正などのすべての犠牲者； 弱者、恐怖の内に生きる人々、捕虜、世界のいかなる地にあろうと拷問にあっている人々、そういったすべての人たちの名によって：

破壊、崩壊、戦争の犠牲者になり、安全、平和、共生の場を失ってしまった人々と諸民族の名によって：

すべての人を抱擁し、一つに結び、平等にする「人類のきょうだい愛」の名によって：

人間たちの行動と人類の運命を誘導する全体支配主義と分断を掲げる政略、度を越えた利益追求システム、憎悪に拍車をかけるイデオロギーなどによって傷つけられた、このきょうだい愛の名によって：

神がそれによって見分けられるように自由な者として創造されたすべての人間が持つ、自由の名によって：

繁栄の基盤であり、信仰の要である、義といつくしみの名によって：

地上のあらゆる場所に存在する、すべての善意の人の名によって：

神の名そして上記のすべての名によって、Al-Azhar al-Sharif アルアズルイスラム研究所（カイロにあるイスラム・スンニ派研究の最高権威）—東西のイスラム教徒—とカトリック教会—東方典礼とラテン典礼—は、歩むべき道として対話の文化を、行動すべき態度として協働を、方法・基準として相互認識を、採択することをここに共同宣言します。

神との最終的出会いと最後の審判を信じるわたしたち神の信仰者は、自らの宗教的・倫理的責任を担い、この文書（宣言書）を通して、わたしたち自身と世界の指導者たち、国際政治と世界経済の責任を担う者たちに、寛容の文化、共生、そして平和を広めるための真摯な努力を求めます； 無辜の血が流されることを止めるためいち早く介入し、今世界が苦しんでいる戦争、紛争、環境破壊、文化的・倫理的衰退を終わらせる努力をするよう、求めます。

わたしたちは知識者、哲学者、宗教家、芸術家、報道関係者、世界中の文化人に向けて、平和、正義、善、美、人類のきょうだい愛、共生の価値を再発見し、すべての人にとって救いの錨となるそのような価値をあらゆる場所で広めていくよう求めます。

本宣言は、現代社会のありさまを深く熟考し、その様々な成功を評価し、その苦しみ、惨事、災害をこの身に生きることを通して、近代世界の危機のもっとも重要な原因とは麻痺

状態になった人間の良心と宗教的価値を疎外したことにあること、それに加えて個人主義と、人間を神化し、至高の超越的原理に取って代わった世俗的物質主義であると確信します。

わたしたちは、近代文明が科学・技術・医学・産業・福祉の面で、とりわけ先進国において、発展したことを認めつつも、そのような歴史的偉大な発展と共に、モラルの劣化という現象が起きたことを否認しません。それは世界レベルで人々の行動方針に影響を与え、霊的価値¹と責任感の脆弱化をもたらしました。これらは社会全体にフラストレーション、孤独、絶望感を浸透させ、多くの者は極度な無神論や不可知論に陥ったり、宗教的十全主義、過激派、盲目的ファンダメンタリズムの渦に巻き込まれ、他の人々をも隷属化させ、個人的・集団的自己破滅という運命の前に屈服させたのです。

歴史を見ると、宗教的過激主義、国粹主義、不寛容は、東西を問わず、世界中に、いわば「分断された第3次世界大戦」と呼ばれる兆しを発生させ、それは世界の多くの地域で、多くの悲劇的狀況の中で、その残酷な正体を見せ始めています。犠牲者の数、孤児ややもめになった人々の数も分からない状況があります。さらに、その他の地域では、新しい圧力の火種が発生し、武器や軍需品が集められ、新しい紛争地となる準備が進められています。生活の不確実性、失望、将来への恐れ、そこへ目先だけの経済利益を得ようと企む勢力が入り込んでくるのです。

さらに、大きな政治危機、不正、自然資源の公平な分配——一握りの富裕層が地上の大多数の民を犠牲にして享受しています——の欠乏などが、膨大な数の病者、助けを必要とする者、死者を発生させ、今でも発生させ続け、多くの国が、その保有する自然資源や若年層の多い人的資源にもかかわらず、犠牲となり、致命的な危機に瀕しています。貧困と飢餓のせいで骸骨のようになり死んでゆく数百数千万人の子供達を発生させるそのような危機の前に、国際社会の受け入れ難い沈黙が覆っています。

このような状況において明確なのは、子供を産み育て、教育し、確固たるモラルを与え、家族的護りを与える、社会と人類を構成する核としての家族の大切さです。家族制度を侮蔑し又はその役割の重要さを疑い、攻撃するのは、現代におけるもっとも危険な悪の一つです。

さらに、宗教感覚の目覚めを促すことの重要性を証言します。そして個人主義的・利己的傾向や紛争をもたらすあらゆる形の盲目的過激主義に対立するための健全な教育、倫理価値の共有、正しい宗教教育を通して新しい世代の心が再び奮い起こされることの重要性を、証言します。

¹ 英文表記/spiritual values

すべての宗教の第一のそしてもっとも重要な目的は神を信じ、崇敬し、すべての人がこの宇宙はそれを治めておられる神に委ねられ、神はその叡智によってわたしたちを創り、大切に守るようにといのちの賜物を与えてくださった創造主であると信じることにあります。この賜物は誰も自分が思うままにそれを奪い、危険にさらし、変質させる権利を持っていません。というか、すべての人はそのいのちの賜物を、そのはじまりから自然死に至るまで、護らなければなりません。したがってわたしたちは大量殺戮、テロ行為、強制民族移動、臓器売買、堕胎、安楽死、そしてこれらを支持する政策を糾弾します。

又、宗教は戦争を煽ることも、憎しみ、敵対、過激主義を推奨することも、暴力や流血を導くこともないことを、断固として宣言します。これらの惨事は宗教の教えの逸脱、宗教の政治利用であり、歴史のある一定の時期においてはある宗教グループが自分たちの世俗的でさもしい政治的・経済的目標を実現するため、人々の宗教心を利用して宗教の真実とはまったく関係のないことを行動に移させるよう仕向けた結果なのです。よってわたしたちはすべての人に、憎しみ、暴力、過激主義やファナティズムを煽るために宗教の名を利用するのをやめ、神の名によって殺害、流刑、テロ、圧迫を正当化することから手を引くよう求めます。殺害されるため、互いに争うため、拷問にかけられたり生きている上で屈辱を受けたりするために人間を創造されたのではない神へのわたしたちの共通の信仰ゆえに求めます。

本宣言書は、世界平和の構築のための諸宗教の重要性を強調した過去の国際文書に賛同し、下記のように主張します。

- ー 宗教の真の教えは、平和という価値に深く結ばれているよう招き、相互理解、人類のきょうだい愛、共生と交わりの価値を支持し、知恵、義、愛を再建し、若い人々に宗教心を再び目覚めさせ、若い世代を物質主義の支配、法の力ではなく「力の法則」に基づいてとめどない儲けを追求する貪欲なシステムと他者への無関心という危険性から護るものであると確信します。
- ー 自由はすべての人に与えられた権利です。人間一人ひとりには信仰内容、考え、表現と行動の自由を享受しています。宗教、肌の色、性、人種、言語の多元性・多様性は神の叡智が望んだことであり、それを通して神は人類を創造しました。この神の叡智が、信仰内容の自由と相違（人それぞれが異なった存在であること）の自由の根源です。それゆえ、人々をある特定の宗教やある特定の文化に賛同するよう、又は本人は受け入れないのにも関わらずある特定の文明様式を義務付けるのは、糾弾されるべきです。
- ー いつくしみに基づいた義こそが、すべての人がその権利を持っている「尊厳ある生」に達するためへの道です。

- 対話、相互理解、寛容の文化の普及、他者の受け入れ、人類の共生を目指すことなどが、世界の大多数の地域の人々を襲っている経済的、社会的、政治的、環境的問題を縮小させるために大いに貢献できるでしょう。
- 信仰者の対話とは、それぞれが持つ霊的²、人間的、社会的価値からなる広大な空間の中で出会い、諸宗教に触発されてそれらすべてを、至高の倫理的価値を浸透させるために活用することを意味します。
- 信仰の場——神殿、教会、モスク——の保護は、諸宗教、人間的価値、法律、国際協定によって保証されています。信仰の場を攻撃したり、危害を与えたり、爆破や崩壊させたりすることによって脅かすことは、宗教の教えからの逸脱であるとともに、国際法の明らかな違反です。
- 世界の東西南北にかかわらず人々の安全を脅かし、パニック、恐怖、ペシミズムを撒き散らす忌むべきテロリズムは、たとえテロリストたちが宗教の名を利用していても、宗教を発端とするものではありません。宗教の經典の誤った解釈の積み重ねと、飢餓、貧困、不正、圧迫、傲慢の政治によるものです。だからこそ、テロ運動を資金や武器の調達、計画、正当化、メディアや報道を通じて支えることをやめさせ、それらすべてが世界の安全と平和を脅かすものとして、国際犯罪とみなすことが必要です。
- 「市民」とは、平等な権利と義務のもと、すべての人が法的に守られていること³を意味します。したがってわたしたちの社会の中で「十全な市民権」のコンセプトを定義し、制定し、隔絶や劣等性を感じさせる可能性のある「マイノリティー」ということばの差別的な使用を避けることが必要です。それは敵対や反目の領域を準備させ、ある一定の市民を差別して、宗教的・市民的権利の発展・成果を受けられないようにします。
- 西洋と東洋の関係は、議論の余地ない相互必要性の上に立っており、それは何ものによっても代行されず、おろそかにされるべきでもありません。文化交流と対話を通して、両者が相手の文明からよいものを受け、豊かになるからです。西洋は東洋文明の内に、物質主義の支配に犯された自らのいくつかの内的宗教的病い⁴に対する治療法を見出すことができるかもしれません。東洋は西洋文明の内に、脆弱さ、分断、紛争、科学・技術・文化的衰退から脱する助けとなる多くの要素を見いだすことができるかもしれません。東洋における人格・文化・文明の形成で重要視されなければならない要素である、「宗教・文化・歴史の相違」に注意を払うことも重要です。そして、二つの秤（異なった目方を表示する天秤）を用いる政策を避け、西洋と東洋のすべての人に尊厳ある生を保障するよう、共に人権を揺るぎないものにするのが大切です。
- 女性に対して教育、職業、政治的権限を認めることは必要不可欠です。さらに、自らの信仰や尊厳を持つという原則に反する歴史的社会的圧力から女性を解放するために努

² 英文表記/spiritual

³ 英語表記/justice

⁴ 英語表記/those spiritual and religious maladies

力しなければなりません。また、女性を性的搾取、快楽の手段、経済的利益をもたらす商品のように扱うことから女性を護らなければなりません。そのため、女性の尊厳を卑しめる非人間的な習慣や俗悪な慣習をなくし、女性が自らの人権を十分に享受できることを阻止する法律を変えるよう努力しなければなりません。

- － 家族的環境の中で育ち、栄養補給、教育、養護を受けるという子供たちの基本的権利の保護は、家族と社会の義務です。そのような権利は、世界のすべての場所のすべての子供に対して拒否されないよう、保証され保護されなければなりません。
- － 高齢者、弱者、障害者、虐げられている人々の人権を守るのは宗教的、社会的義務であり、厳密な法制定、関連する国際協定の遵守を通して保証され、護られなければなりません。

そのために、カトリック教会とアル＝アズハル (al-Azhar) は、協働し、本宣言書 (文書) を世界中の権威ある機関⁵、影響力ある指導者、宗教者、地域および国際的管轄組織、市民社会機関、宗教機関、指導的思想家に届けることを約束します。また、本宣言の原則が政策、決断、法律文書、研究計画、コミュニケーション資料に反映されるよう望み、あらゆる地域的国際的レベルで広めるよう、努力します。

アル＝アズハル (al-Azhar) とカトリック教会は、善と平和を胸に抱き、あらゆる地において虐げられた人々、もっとも底辺に置かれている人々の権利を護る新しい世代が生まれるよう、本宣言書がすべての学校、大学、教育・養成機関において研究資料になるよう望みます。

最後にこのように願います。

本宣言が

すべての信仰者、というよりむしろ、神を信じるそして信じないすべての人、すべての善意の人々へ向けられた、和解ときょうだい愛への招きとなりますように。

常軌を逸した暴力や盲目的過激主義を拒否するすべての良心へのアピール、諸宗教が勇気付け奨励する、寛容ときょうだい愛という価値を愛する者へのアピールとなりますように。

分断された心を一致させ、人の魂を高める神への信仰の偉大さの証しとなりますように。

東洋と西洋、世界の北と南の地域、神がわたしたちを、知り合うため、協働するため、愛し合うきょうだいとして創造されたと信じるすべての人の、抱擁の象徴となりますように。

⁵ 英語表記/authorities

これこそ、すべての人がその生の中で普遍の世界的平和に達するため、わたしたちが望み、実現の努力を掲げることであります。

アブダビ、2019年2月4日

教皇フランシスコ

アル＝アズハルのグランド・イマーム、
アフマド・アル・タイーブ師